

8103 池のまわりのアカシアの花はもう・・・

池のまわりのアカシアの花はもう散りかかっていた。西空の夕焼けは、池の表面を眩しいほどカッと輝かせていたが、山の裾のあちこちの小さな谷間には、すでに夜の気配の暗く不気味な影ができていた。そこらあたり全体が、ふしぎな明暗の照明を浴びた舞台のようであった。

清岡卓行『アカシアの大連』

[許容訳例]

The flowers of acacia around the pond were already falling. The evening glow in the western sky was dazzlingly bright on the surface of the pond, but on the other hand, in several small defiles on the skirts of the mountain, there were already dark, ominous shades of night. The whole area was like a stage on which were directed mysterious light and dark spotlights.

[翻訳例]

The acacia blossoms around the pond were already falling. The sunset glow in the western sky threw an almost dazzling light on the surface of the pond, yet in small valleys here and there on the skirts of the mountain dark, ominous shadows proclaimed the approach of night. The whole area was like a stage bathed in a mysterious play of light and shadow.

■池のまわりのアカシアの花はもう散りかかっていた。(8103)

★「池のまわりの」は around the pond です。

★「アカシアの花」は、小さい花がいっぱい固まっているので the acacia bloom です。flower でも間違いではありませんが、本来、flower は草花でも木に咲く花でも、一輪一輪がはっきりしている場合に使います。ですから、木蓮などは magnolia flowers と magnolia blossom とも言います。なお、blossom は集合名詞で flower は普通名詞ですが、blossom を複数にして flowers と同じような使い方をすることがあります。たとえば、magnolia blossom と言うと全体として見ている場合ですし、magnolia blossoms と言うと個々の花を見ていることになります。「桜」の場合も cherry blossom と cherry blossoms とも言います。

◆定冠詞と無冠詞

「池のまわりのアカシアの花」は定冠詞を付けて the acacia blossom [the flowers of the acacia] around the pond とする必要があります。この場合の定冠詞は、前にアカシアの花の話をしているわけではないので「例の」とか「みんなよく知っている」という意味ではなく、「自分の目の前にある池のまわりのそのアカシアの花」という意味で「了解要請」です。逆に acacia blossom [flowers of acacia] around the pond と無冠詞するとどういう意味になるかというと、「池のまわりにアカシアの花があり、それが・・・」という意味（未了解情報）、つまり There were acacia blossom around the pond, and they were…と言ったのと同じになります。

★「もう散りかかっていた」は厳密に言う to had already begun to fall ですが、were already

fallingの方が文学的でいいと思います。なお、scatterも桜の花のように、小さくて軽い花なら使えます。

■西空の夕焼けは、池の表面を眩しいほどカッと輝かせていたが、山の裾のあちこちの小さな谷間には、すでに夜の気配の暗く不気味な影ができていた。(8103)

★「西空の」は in the western sky しかないでしょう。

★「夕焼け」はちょっと難しい。The evening glow は夕焼けよりちょっと後の「残光」の感じです。そうかと言って sunset だけでは物足りません。sunset というのは、「日没」の意味もありますが、夕焼けの美しい色彩を強調した言葉（夕映え）でもあるので、ここは sunset glow とするのがいいと思います。

★「池の表面を」は on the surface of the pond です。

★「眩しいほど」は「眩しい」とまではいかないのでしょう。「ほど」とか「ぐらい」を訳すときに非常に便利なことばとして almost があります。almost dazzling…とか almost dazzlingly…とすればいいでしょう。

★「カッと輝かせていた」は、(the sunset glow) threw an almost dazzling light とすれば、日本語の動作表現（輝かせていた）と一致しますが、「カッと輝いていた」（状態）と解釈すれば(the sunset glow) was almost dazzlingly bright くらいでしょう。dazzling の代わりに glaring を使うと眩しさが強すぎでいやな感じになってしまいます。

● [が]

「A だ [が], B」で、前後のコントラストが強い場合には but では弱いことがあります。その際には but on the other hand としてもいいですが、yet でも十分に表すことが出来ます。

★「山の裾の」は on the skirts of the mountain です。

★「あちこちの」は here and there でしょう。several などを使うと、どうしても「一つ、二つ・・・」と数える感じになってしまいます。

★「小さな谷間」は small valleys ですが、場合によっては small defiles も使えます。

★「すでに」は already でしょう。

★「夜の気配」は, shades of night という決まり文句があります。これは日本語で言うと「夕闇・宵闇」で、「夜の前兆としてできる陰」の場合と、the dark night と同じ意味で「夜そのもの」の場合もあります。the approach of night なら「夜の気配」に使えます。

★「暗く、不気味な影」は dark, ominous shadows ですが、「夜の気配の暗く不気味な影」をまとめて dark, ominous shades of night で表すこともできます。ominous には「不気味な」という意味と「気配」という意味の両方が入っています。なお、shade は「直接光が当たらないところ・陰」であり、shadow は「光が当たって出来る影」ですから「不気味な影」には window の方を使うべきなのでしょうが、どちらも「暗いところ」であることに違いはなく、したがって「夕闇・宵闇」は shades of night とともに the shadows of dark とも言います。

● 具体的な言葉を先頭に出すのが英語的

「・・・には、すでに夜の気配の暗く不気味な影ができていた」を読むと、真っ先に出て

くる文構造は There were…in…です、つまり、There were already dark, ominous shades of night in small valleys.ですが、there was[were]…というような弱い言葉（あるいは客観的に無感情）で始めないで、いきなり具体的な言葉を前に持ってきて印象づけるのが英語のスタイルです。たとえば、There's a policeman standing over there.と Look! A policeman is standing over there.は同じ意味ですが、前者は鳥瞰的であり、後者の方が印象的ということです。ですから、ここでも、Dark, ominous shadows already proclaimed the approach of night.とした方が英語的です。

■そこらあたり全体が、ふしぎな明暗の照明を浴びた舞台のようであった。(8103)

★「そこらあたり全体」ですが、文字通り英語に変換すると the whole area around there です。間違っていないのですが、これでは何かが中心にあってその周辺ということで、真ん中が抜けてしまいます。the whole area だけで十分です。

★「ふしぎな」は「明暗の照明」に懸かっているようすし、「舞台」に懸かっているようにも解釈できますが、いずれにしても mysterious でいいでしょう。

★「明暗の照明」ですが、「照明」は「舞台」に当てる「照明」ですから、そのまま変換すると light and dark spotlight ですが、「照明」は「明かりで照らす」のですから明るいのは当たり前で、「暗い照明」はあり得ないでしょう。「明るい照明といくぶん暗い照明」とも解釈することもできますが、これは無理っぽいです。ここは、光と影のコントラストをうまく生かした照明、つまり、スポットライトが当たった明るいところと暗いところが絶妙な、だから不思議な舞台と言いたかったのでしょう。ですから「明暗の」は「照明」に懸かるのではなく「舞台」に懸かると解釈することもできます。

★「浴びる」は be bathed in…で表すことが出来ますが、direct a light on something（・・・に光を向ける）も使うことができます。

●連体修飾節＋不定代名詞的体言（ふしぎな明暗の照明を浴びた舞台）

「ふしぎな明暗の照明を浴びた舞台」は「連体修飾節＋不定代名詞的体言（舞台）」ですから、英語では「名詞(stage)＋関係詞節」になります。be bathed in…を使うと a stage (which was) bathed in a mysterious play of light and shadow とか、あるいは direct a light on something を使うと a stage on which was directed a mysterious light and dark spotlight か a stage which a mysterious light and dark spotlight was directed on とかでごまかすことができます。なお、「ごまかす」と言ったのは dark spotlight というのは現実的には存在しないからです。ただ、mysterious light and dark spotlights と複数にするより、いっそのこと a mysterious light and dark spotlight と単数にした方が mysterious で面白いということです。